

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F141110111135	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	佐賀大学	設置区分	国立	事業計画名	地域との連携による佐賀大学高度情報専門人材育成プロジェクト
学校種	大学	都道府県	佐賀県		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	i.情報系組織の入学定員 〈博士〉2人〈修士〉25人〈学士〉92人 理工学研究科（博士後期）：数理・情報サイエンスコース（入学定員2名） 理工学研究科（博士前期）：データサイエンスコース（入学定員5名）、知能情報工学コース（入学定員20名） 理工学部理工学科：データサイエンスコース（入学定員25名）、知能情報システム工学コース（入学定員38名）、情報ネットワーク工学コース（入学定員29名） ii.設置認可申請又は届出等の計画 6月 理工学部理工学科（データサイエンスコース、知能情報システム工学コース、情報ネットワーク工学コース）の定員増に関して大学設置・学校法人審議会における収容定員増に係る「意見伺い」を提出予定 iii.開設又は定員増等の計画 4月 理工学部理工学科データサイエンスコース開設（入学定員25名）	i.情報系組織の入学定員 〈博士〉2人〈修士〉25人〈学士〉92人 理工学研究科（博士後期）：数理・情報サイエンスコース（入学定員2名） 理工学研究科（博士前期）：データサイエンスコース（入学定員5名）、知能情報工学コース（入学定員20名） 理工学部理工学科：データサイエンスコース（入学定員25名）、知能情報システム工学コース（入学定員38名）、情報ネットワーク工学コース（入学定員29名） ii.設置認可申請又は届出等 6月 理工学部理工学科（データサイエンスコース、知能情報システム工学コース、情報ネットワーク工学コース）の定員増に関して大学設置・学校法人審議会における収容定員増に係る「意見伺い」を提出した iii.開設又は定員増等 4月 理工学部理工学科データサイエンスコース開設（入学定員25名）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 6月 学部定員増に関して大学設置・学校法人審議会における収容定員増に係る「意見伺い」を提出する ② 9月、3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ③ 10月 機械学習分野に関する科目担当教員採用（1名）及び教員室整備 ④ 10月 データサイエンス関連授業を高校生向けに公開し、本学入学後に単位認定する制度を設ける。 ⑤ 後学期 共同研究プロジェクトの状況調査と改善案策定 ⑥ 12月 新科目配置（「クラウド技術」、「センサープログラミング」、「情報系インターンシップ」等、科目名は仮）のための理工学部情報系コースのカリキュラムの改定。令和6年度入学生より適用。	① 6月 学部定員増に関して大学設置・学校法人審議会における収容定員増に係る「意見伺い」を提出した。令和5年8月に設置計画を可とする回答がなされた通知があった。 ② 9月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催した。意見交換の結果、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実のために、地元企業や自治体ができるかを詳細に把握する必要があることが分かり、教育連携の在り方についてアンケートを令和6年6月に実施することとなった。 ③ 10月 機械学習分野に関する科目担当教員採用（1名）及び教員室整備（R6.1.16承認） ③ 10月 大学進学を目指す高校生を対象に、データサイエンス関連授業科目を開講し、科目等履修生として受け入れた。同科目を合格した履修生は本学入学後に単位認定することが可能となる。令和5年度は2科目で延べ98名の高校生が履修し、87名が合格した。 ④ 後学期 共同研究プロジェクトの現状を把握し、安定的な協力関係を持つため、複数の地元企業等と包括協定締結する検討を行った。 ④ ⑤ 12月 新科目配置（「ネットワークシステムとクラウド」、「センサープログラミング実験」、「数理・情報インターンシップS」、「数理・情報インターンシップL」）のための理工学部情報系コースのカリキュラムの改定をおこなった。令和6年度入学生より適用させる。 【変更内容】 令和5年10月より採用予定であった教員が令和6年4月採用予定に変更となった。		
令和6年度	i.情報系組織の入学定員 〈博士〉2人〈修士〉25人〈学士〉122人 ii.設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii.開設又は定員増等の計画 4月 理工学部理工学科データサイエンスコース15名増員（入学定員40名）、知能情報システム工学コース8名増員（入学定員46名）、情報ネットワーク工学コース7名増員（入学定員36名）		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 理工学部情報系コース定員30名増 ② 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ③ 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員採用（1名）、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員雇用（2名）、非常勤職員雇用及び教員室整備 ④ 8月、3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑤ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施			

令和7年度	i .情報系組織の入学定員 (博士)2人(修士)25人(学士)122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii. 開設又は定員増等の計画 なし。		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続雇用、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員採用（2名）及び教員室整備 ④ 8月， 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑤ 9月 令和8年度開講のデバイスプログラミング及びクラウド技術に関する科目のための教室等整備 ⑥ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施			
令和8年度	i .情報系組織の入学定員 (博士)2人(修士)25人(学士)122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii. 開設又は定員増等の計画 なし。		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員継続雇用 ④ 4月 ビッグデータ解析及び異常検知分野に関する科目担当教員採用（2名）及び教員室整備 ⑤ 8月， 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑥ 9月 令和6年度増員学生の研究室配属のための施設整備 ⑦ 10月 令和6年度増員学生の研究室配属（3年次後期） ⑧ 10月 理工学部において、デバイスプログラミング及びクラウド技術に関する科目開講 ⑨ 1月 教育用計算機システム仕様策定開始 ⑩ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施			

令和9年度	i .情報系組織の入学定員 (博士)2人(修士)25人(学士)122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 6月 理工学研究科 (博士前期) (データサイエンスコース、知能情報工学コース) の定員増に関して大学設置・学校法人審議会における収容定員増に係る「意見伺い」を提出予定 iii. 開設又は定員増等の計画 なし。		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続雇用、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員継続雇用 ④ 4月 ビッグデータ解析及び異常検知分野に関する科目担当教員継続雇用 ⑤ 4月 情報ネットワーク分野の教員採用 (1名) 及び教員室整備 ⑥ 6月 大学院定員増に関して大学設置・学校法人審議会における収容定員増に係る「意見伺い」を提出する ⑦ 6月 大学院データサイエンスコース及び知能情報工学コースカリキュラム改訂 ⑧ 8月, 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑨ 3月 教育用計算機システム更新 (初年度) ⑩ 後学期 共同研究プロジェクトの状況調査と改善案策定 ⑪ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施			
令和10年度	i .情報系組織の入学定員 (博士)2人(修士)45人(学士)122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii. 開設又は定員増等の計画 4月 理工学研究科 (博士前期) データサイエンスコース10名増員 (入学定員15名)、知能情報工学コース10名増員 (入学定員30名)		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続雇用、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員継続雇用 ④ 4月 ビッグデータ解析及び異常検知分野に関する科目担当教員継続雇用 ⑤ 4月 情報ネットワーク分野の教員継続雇用 ⑥ 4月 理工学研究科 (博士前期課程) 情報系定員20名増 ⑦ 4月 理工学研究科において、品質工学、フィジカルコンピューティング関連科目開講 ⑧ 8月, 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑨ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施 ⑩ 4月 教育用計算機システムリース契約継続 (2年目)			

令和11年度	i .情報系組織の入学定員 〈博士〉2人〈修士〉45人〈学士〉122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii. 開設又は定員増等の計画 なし。		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続雇用、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員継続雇用 ④ 4月 ビッグデータ解析及び異常検知分野の関する科目担当教員継続雇用 ⑤ 4月 情報ネットワーク分野の教員継続雇用 ⑥ 4月 理工学研究科において、ビッグデータ解析、異常検知、IOTセキュリティ関係科目開講 ⑦ 8月、 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑧ 10月 学部定員増に関する自己点検評価 ⑨ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施 ⑩ 4月 教育用計算機システムリース契約継続 (3 年目)			
令和12年度	i .情報系組織の入学定員 〈博士〉2人〈修士〉45人〈学士〉122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii. 開設又は定員増等の計画 なし。		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続雇用、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員継続雇用 ④ 4月 ビッグデータ解析及び異常検知分野の関する科目担当教員継続雇用 ⑤ 4月 情報ネットワーク分野の教員継続雇用 ⑥ 8月、 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑦ 10月 大学院定員増に関する自己点検評価 ⑧ 10月 学部カリキュラム改定の要否を検討 ⑨ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施 ⑩ 4月 教育用計算機システムリース契約継続 (4 年目)			

令和13年度	i .情報系組織の入学定員 (博士)2人(修士)45人(学士)122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii. 開設又は定員増等の計画 なし。		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続雇用、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員継続雇用 ④ 4月 ビッグデータ解析及び異常検知分野に関する科目担当教員継続雇用 ⑤ 4月 情報ネットワーク分野の教員継続雇用 ⑥ 8月, 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑦ 10月 大学院カリキュラム改定の要否を検討 ⑧ 1月 教育用計算機システム仕様策定開始 ⑨ 後学期 共同研究プロジェクトの状況調査と改善案策定 ⑩ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施 ⑪ 4月 教育用計算機システムリース契約継続 (5年目)			
令和14年度	i .情報系組織の入学定員 (博士)2人(修士)45人(学士)122人 ii .設置認可申請又は届出等の計画 なし。 iii. 開設又は定員増等の計画 なし。		○年度自己 評価	リストから選択してください。
	① 4月 機械学習分野に関する科目担当教員継続雇用 ② 4月 デバイスプログラミング分野に関する科目担当教員継続雇用、データサイエンス関連分野クロスアポイントメント教員継続雇用、非常勤職員継続雇用 ③ 4月 フィジカルコンピューティング、クラウド技術分野に関する科目担当教員継続雇用 ④ 4月 ビッグデータ解析及び異常検知分野に関する科目担当教員継続雇用 ⑤ 4月 情報ネットワーク分野の教員継続雇用 ⑥ 8月, 3月 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催し、社会のニーズを反映するための意見交換や、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実を行う。 ⑦ 3月 教育用計算機システム更新 ⑧ 後学期 特別入試として女子枠入試(募集定員5名程度)を実施 ⑨ 4月 教育用計算機システムリース契約継続 (6年目)			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	佐賀大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table><tr><td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>認定を受ける計画が進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	佐賀大学
-------------	-------	-----	------

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	
	■ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①	地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>地元企業・自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を設け、年に1～2回の意見交換を行っており、社会ニーズを踏まえて教育カリキュラムの見直し等を行っていく。これまでも、理工学部共通科目「地方創生インターンシップ」、理工学研究科データサイエンスコース科目「データサイエンス・インターンシップ」は地元企業と連携して実施しているが、インターンシップや共同研究プロジェクトをさらに充実させる今回の計画については既に複数の企業等から協力の申し出を受けている。また、日本マイクロソフト社の実務家を講師として招き、より実践的なAI実習を理工学部理工学科の共通科目「サブフィールドPBL」で実施する。また、現状で地元のIT関連企業である福博印刷社の実務家をクロスアポイント教員として採用しているが、実践的な内容を踏まえた教材開発を本学教員とともに協働して行う。この他、実務家教員の新規採用、「高度情報系専門人材育成懇談会」参加企業・自治体職員による授業でのゲストスピーカーによる講義を実施する。これらの取組により、学生は、より実践的な内容を学ぶことができる。</td><td>地元企業と連携して、教養教育科目「チャレンジインターンシップA」を開講した。一般社団法人地域デザイン総合研究所でのインターンシップでは各種ビッグデータ、佐賀市中心市街地に設置するIoTセンサーで取得した環境データ、人流データ、オープンデータ等を使い佐賀市中心市街地を活性化させるためのデータ分析を行う内容とした。木村情報技術株式会社でのインターンシップではChatGPTを活用したデータ分析・考察、メタバース空間での発表体験を行った。他にも、理工学部では、株式会社SUMCOから講師をお招きし、半導体及び半導体産業の魅力と、講師の方の経営に関する知見と経験を元に学生のキャリア形成に向けた特別講演会を開催した。 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催した。意見交換の結果、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実のために、地元企業や自治体がどのような協力ができるかを詳細に把握する必要があることが分かり、教育連携の在り方についてアンケートを令和6年6月に実施することとなった。 また、日本マイクロソフト社の実務家を講師として招き、令和5年9月に理工学部理工学科の共通科目「サブフィールドPBL」においてAIに関する実習を実施した。 クロスアポイントメント制度で雇用している福博印刷社の実務家教員と協働し、実践的な内容を踏まえた教材開発を行った。開発した教材を令和6年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の「理工リテラシーS3」「AI・数理・データサイエンスⅡ」に利用する。 この他、企業と包括協定について協議中であり、それを通じて新たに実務家教員を採用する予定である。</td><td></td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	地元企業・自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を設け、年に1～2回の意見交換を行っており、社会ニーズを踏まえて教育カリキュラムの見直し等を行っていく。これまでも、理工学部共通科目「地方創生インターンシップ」、理工学研究科データサイエンスコース科目「データサイエンス・インターンシップ」は地元企業と連携して実施しているが、インターンシップや共同研究プロジェクトをさらに充実させる今回の計画については既に複数の企業等から協力の申し出を受けている。また、日本マイクロソフト社の実務家を講師として招き、より実践的なAI実習を理工学部理工学科の共通科目「サブフィールドPBL」で実施する。また、現状で地元のIT関連企業である福博印刷社の実務家をクロスアポイント教員として採用しているが、実践的な内容を踏まえた教材開発を本学教員とともに協働して行う。この他、実務家教員の新規採用、「高度情報系専門人材育成懇談会」参加企業・自治体職員による授業でのゲストスピーカーによる講義を実施する。これらの取組により、学生は、より実践的な内容を学ぶことができる。	地元企業と連携して、教養教育科目「チャレンジインターンシップA」を開講した。一般社団法人地域デザイン総合研究所でのインターンシップでは各種ビッグデータ、佐賀市中心市街地に設置するIoTセンサーで取得した環境データ、人流データ、オープンデータ等を使い佐賀市中心市街地を活性化させるためのデータ分析を行う内容とした。木村情報技術株式会社でのインターンシップではChatGPTを活用したデータ分析・考察、メタバース空間での発表体験を行った。他にも、理工学部では、株式会社SUMCOから講師をお招きし、半導体及び半導体産業の魅力と、講師の方の経営に関する知見と経験を元に学生のキャリア形成に向けた特別講演会を開催した。 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催した。意見交換の結果、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実のために、地元企業や自治体がどのような協力ができるかを詳細に把握する必要があることが分かり、教育連携の在り方についてアンケートを令和6年6月に実施することとなった。 また、日本マイクロソフト社の実務家を講師として招き、令和5年9月に理工学部理工学科の共通科目「サブフィールドPBL」においてAIに関する実習を実施した。 クロスアポイントメント制度で雇用している福博印刷社の実務家教員と協働し、実践的な内容を踏まえた教材開発を行った。開発した教材を令和6年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の「理工リテラシーS3」「AI・数理・データサイエンスⅡ」に利用する。 この他、企業と包括協定について協議中であり、それを通じて新たに実務家教員を採用する予定である。		
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
地元企業・自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を設け、年に1～2回の意見交換を行っており、社会ニーズを踏まえて教育カリキュラムの見直し等を行っていく。これまでも、理工学部共通科目「地方創生インターンシップ」、理工学研究科データサイエンスコース科目「データサイエンス・インターンシップ」は地元企業と連携して実施しているが、インターンシップや共同研究プロジェクトをさらに充実させる今回の計画については既に複数の企業等から協力の申し出を受けている。また、日本マイクロソフト社の実務家を講師として招き、より実践的なAI実習を理工学部理工学科の共通科目「サブフィールドPBL」で実施する。また、現状で地元のIT関連企業である福博印刷社の実務家をクロスアポイント教員として採用しているが、実践的な内容を踏まえた教材開発を本学教員とともに協働して行う。この他、実務家教員の新規採用、「高度情報系専門人材育成懇談会」参加企業・自治体職員による授業でのゲストスピーカーによる講義を実施する。これらの取組により、学生は、より実践的な内容を学ぶことができる。	地元企業と連携して、教養教育科目「チャレンジインターンシップA」を開講した。一般社団法人地域デザイン総合研究所でのインターンシップでは各種ビッグデータ、佐賀市中心市街地に設置するIoTセンサーで取得した環境データ、人流データ、オープンデータ等を使い佐賀市中心市街地を活性化させるためのデータ分析を行う内容とした。木村情報技術株式会社でのインターンシップではChatGPTを活用したデータ分析・考察、メタバース空間での発表体験を行った。他にも、理工学部では、株式会社SUMCOから講師をお招きし、半導体及び半導体産業の魅力と、講師の方の経営に関する知見と経験を元に学生のキャリア形成に向けた特別講演会を開催した。 地元企業や自治体と「高度情報系専門人材育成懇談会」を開催した。意見交換の結果、インターンシップや共同研究プロジェクトの内容充実のために、地元企業や自治体がどのような協力ができるかを詳細に把握する必要があることが分かり、教育連携の在り方についてアンケートを令和6年6月に実施することとなった。 また、日本マイクロソフト社の実務家を講師として招き、令和5年9月に理工学部理工学科の共通科目「サブフィールドPBL」においてAIに関する実習を実施した。 クロスアポイントメント制度で雇用している福博印刷社の実務家教員と協働し、実践的な内容を踏まえた教材開発を行った。開発した教材を令和6年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の「理工リテラシーS3」「AI・数理・データサイエンスⅡ」に利用する。 この他、企業と包括協定について協議中であり、それを通じて新たに実務家教員を採用する予定である。							
②	初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>佐賀大学では、「継続・育成型」の高大連携カリキュラムを佐賀県教育委員会と協力して開発・実施している実績を有している。理工学部では、平成28年度から「科学」を発見・探求できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけることを目的とした「科学へのとびら」を開催しており、今後とも取組を継続する。また、佐賀県立致遠館高校のSSH事業について、高大連携講座の開講や、生徒による課題研究に対する指導・助言等の支援を継続的に行ってきた。令和4年度には「国立大学法人佐賀大学と佐賀県教育委員会との高大連携協力に関する協定書」の下で、本学にて開講するデータサイエンス関連授業を公開し、履修者が本学に入学した後に単位を認定する枠組みを令和5年度に作る方向で、致遠館高校と協議を開始した。また、致遠館高校理数科3年生の希望者によるオンデマンド型講義履修を試行した。現在、関連する規則類の整備を行っている。将来的には致遠館高校に続いて県内高校に対象を拡大するとともに、県外へも対象を拡大する構想である。</td><td>令和5年度も「継続・育成型」の高大連携カリキュラム「科学へのとびら」を継続して実施した。高校1年生から3年生の延べ200名の申込者に対して実施した。大学で開講する授業科目を、高校生が科目等履修生として受講することができる学内規則の整備を行った。同科目を合格した履修生は本学入学後に単位認定することが可能となる。令和5年度は大学進学を目指す高校生を対象に、データサイエンス関連授業科目を開講した。令和5年度は2科目で延べ98名の高校生が履修し、87名が合格した。</td><td></td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	佐賀大学では、「継続・育成型」の高大連携カリキュラムを佐賀県教育委員会と協力して開発・実施している実績を有している。理工学部では、平成28年度から「科学」を発見・探求できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけることを目的とした「科学へのとびら」を開催しており、今後とも取組を継続する。また、佐賀県立致遠館高校のSSH事業について、高大連携講座の開講や、生徒による課題研究に対する指導・助言等の支援を継続的に行ってきた。令和4年度には「国立大学法人佐賀大学と佐賀県教育委員会との高大連携協力に関する協定書」の下で、本学にて開講するデータサイエンス関連授業を公開し、履修者が本学に入学した後に単位を認定する枠組みを令和5年度に作る方向で、致遠館高校と協議を開始した。また、致遠館高校理数科3年生の希望者によるオンデマンド型講義履修を試行した。現在、関連する規則類の整備を行っている。将来的には致遠館高校に続いて県内高校に対象を拡大するとともに、県外へも対象を拡大する構想である。	令和5年度も「継続・育成型」の高大連携カリキュラム「科学へのとびら」を継続して実施した。高校1年生から3年生の延べ200名の申込者に対して実施した。大学で開講する授業科目を、高校生が科目等履修生として受講することができる学内規則の整備を行った。同科目を合格した履修生は本学入学後に単位認定することが可能となる。令和5年度は大学進学を目指す高校生を対象に、データサイエンス関連授業科目を開講した。令和5年度は2科目で延べ98名の高校生が履修し、87名が合格した。		
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
佐賀大学では、「継続・育成型」の高大連携カリキュラムを佐賀県教育委員会と協力して開発・実施している実績を有している。理工学部では、平成28年度から「科学」を発見・探求できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけることを目的とした「科学へのとびら」を開催しており、今後とも取組を継続する。また、佐賀県立致遠館高校のSSH事業について、高大連携講座の開講や、生徒による課題研究に対する指導・助言等の支援を継続的に行ってきた。令和4年度には「国立大学法人佐賀大学と佐賀県教育委員会との高大連携協力に関する協定書」の下で、本学にて開講するデータサイエンス関連授業を公開し、履修者が本学に入学した後に単位を認定する枠組みを令和5年度に作る方向で、致遠館高校と協議を開始した。また、致遠館高校理数科3年生の希望者によるオンデマンド型講義履修を試行した。現在、関連する規則類の整備を行っている。将来的には致遠館高校に続いて県内高校に対象を拡大するとともに、県外へも対象を拡大する構想である。	令和5年度も「継続・育成型」の高大連携カリキュラム「科学へのとびら」を継続して実施した。高校1年生から3年生の延べ200名の申込者に対して実施した。大学で開講する授業科目を、高校生が科目等履修生として受講することができる学内規則の整備を行った。同科目を合格した履修生は本学入学後に単位認定することが可能となる。令和5年度は大学進学を目指す高校生を対象に、データサイエンス関連授業科目を開講した。令和5年度は2科目で延べ98名の高校生が履修し、87名が合格した。							
③	女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>高大連携プログラム「科学へのとびら」を実施し、女子生徒を含む多くの県内高校生に対して、科学への興味を喚起する取り組みを行っている。また、全学的な取り組みとして、「継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」により北部九州の女子生徒に対する理系選択への情報提供を行っている。さらに、小中学生や文理選択前の高校生をターゲットとして、女性研究者のロールモデルや女子大学生の大学生活を紹介するホームページを作成するとともに、パンフレットを作成し、県内の高校・中学校の全クラスに配布し紹介している。このような低学年から理系選択のモチベーションを高められる活動を継続していく。なお、理工学部の情報系コースにおいて、5名程度の女子枠入試を検討している。社会人に対してはDXリスキルプログラムを計画しており、この受講を通じて、受講者がより専門的に学び直すために大学院進学を検討する契機となるようアピールする。留学生に向けて理工学研究科では、英語で授業を行う特別プログラム「AI・データサイエンス高度人材育成プログラム（EPAD）」を実施し、留学生確保に努めており、今後も継続する。</td><td>高大連携カリキュラム「科学へのとびら」を、高校1年生から3年生の延べ200名の申込者に対して実施した。また、「継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」として、女子小中高生及びその保護者を対象とした講話や実験体験イベントを佐賀大学、九州文化学園小中学校（長崎県佐世保市）、佐賀県立香樟中学校・鳥栖高等学校（佐賀県鳥栖市）でそれぞれ開催し、北部九州の女子生徒に対する理系選択への情報提供を行った。また、女子学生大学院進学セミナーや女性のキャリアプランに関する講演会、博士課程女子学生との対談を実施し、女性研究者のロールモデルや女子大学生の大学生活を紹介するホームページでも報告を行った。なお、理工学部では、女子学生が進学しやすい環境を整えることで女子学生比率を高めるため、令和7年度入学者選抜から、入学定員510名に対して15名の女子枠を設けることとした。その内、情報系コースにおいては、5名の女子枠を設けた。社会人向けには、DX人材を育成することにより地域産業の競争力確保を目指す「北部九州DXリスキル地域連携プログラム」を実施した。定員30人に72人の応募（倍率2.4）があり、カリキュラムの構成、講義内容・レベル・分量ともに受講後の評価も高かった。留学生に向けて理工学研究科では、英語で授業を行う特別プログラム「AI・データサイエンス高度人材育成プログラム（EPAD）」を実施し、令和5年度は博士前期課程で2名、博士後期課程で4名の留学生が入学した。</td><td></td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	高大連携プログラム「科学へのとびら」を実施し、女子生徒を含む多くの県内高校生に対して、科学への興味を喚起する取り組みを行っている。また、全学的な取り組みとして、「継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」により北部九州の女子生徒に対する理系選択への情報提供を行っている。さらに、小中学生や文理選択前の高校生をターゲットとして、女性研究者のロールモデルや女子大学生の大学生活を紹介するホームページを作成するとともに、パンフレットを作成し、県内の高校・中学校の全クラスに配布し紹介している。このような低学年から理系選択のモチベーションを高められる活動を継続していく。なお、理工学部の情報系コースにおいて、5名程度の女子枠入試を検討している。社会人に対してはDXリスキルプログラムを計画しており、この受講を通じて、受講者がより専門的に学び直すために大学院進学を検討する契機となるようアピールする。留学生に向けて理工学研究科では、英語で授業を行う特別プログラム「AI・データサイエンス高度人材育成プログラム（EPAD）」を実施し、留学生確保に努めており、今後も継続する。	高大連携カリキュラム「科学へのとびら」を、高校1年生から3年生の延べ200名の申込者に対して実施した。また、「継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」として、女子小中高生及びその保護者を対象とした講話や実験体験イベントを佐賀大学、九州文化学園小中学校（長崎県佐世保市）、佐賀県立香樟中学校・鳥栖高等学校（佐賀県鳥栖市）でそれぞれ開催し、北部九州の女子生徒に対する理系選択への情報提供を行った。また、女子学生大学院進学セミナーや女性のキャリアプランに関する講演会、博士課程女子学生との対談を実施し、女性研究者のロールモデルや女子大学生の大学生活を紹介するホームページでも報告を行った。なお、理工学部では、女子学生が進学しやすい環境を整えることで女子学生比率を高めるため、令和7年度入学者選抜から、入学定員510名に対して15名の女子枠を設けることとした。その内、情報系コースにおいては、5名の女子枠を設けた。社会人向けには、DX人材を育成することにより地域産業の競争力確保を目指す「北部九州DXリスキル地域連携プログラム」を実施した。定員30人に72人の応募（倍率2.4）があり、カリキュラムの構成、講義内容・レベル・分量ともに受講後の評価も高かった。留学生に向けて理工学研究科では、英語で授業を行う特別プログラム「AI・データサイエンス高度人材育成プログラム（EPAD）」を実施し、令和5年度は博士前期課程で2名、博士後期課程で4名の留学生が入学した。		
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
高大連携プログラム「科学へのとびら」を実施し、女子生徒を含む多くの県内高校生に対して、科学への興味を喚起する取り組みを行っている。また、全学的な取り組みとして、「継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」により北部九州の女子生徒に対する理系選択への情報提供を行っている。さらに、小中学生や文理選択前の高校生をターゲットとして、女性研究者のロールモデルや女子大学生の大学生活を紹介するホームページを作成するとともに、パンフレットを作成し、県内の高校・中学校の全クラスに配布し紹介している。このような低学年から理系選択のモチベーションを高められる活動を継続していく。なお、理工学部の情報系コースにおいて、5名程度の女子枠入試を検討している。社会人に対してはDXリスキルプログラムを計画しており、この受講を通じて、受講者がより専門的に学び直すために大学院進学を検討する契機となるようアピールする。留学生に向けて理工学研究科では、英語で授業を行う特別プログラム「AI・データサイエンス高度人材育成プログラム（EPAD）」を実施し、留学生確保に努めており、今後も継続する。	高大連携カリキュラム「科学へのとびら」を、高校1年生から3年生の延べ200名の申込者に対して実施した。また、「継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」として、女子小中高生及びその保護者を対象とした講話や実験体験イベントを佐賀大学、九州文化学園小中学校（長崎県佐世保市）、佐賀県立香樟中学校・鳥栖高等学校（佐賀県鳥栖市）でそれぞれ開催し、北部九州の女子生徒に対する理系選択への情報提供を行った。また、女子学生大学院進学セミナーや女性のキャリアプランに関する講演会、博士課程女子学生との対談を実施し、女性研究者のロールモデルや女子大学生の大学生活を紹介するホームページでも報告を行った。なお、理工学部では、女子学生が進学しやすい環境を整えることで女子学生比率を高めるため、令和7年度入学者選抜から、入学定員510名に対して15名の女子枠を設けることとした。その内、情報系コースにおいては、5名の女子枠を設けた。社会人向けには、DX人材を育成することにより地域産業の競争力確保を目指す「北部九州DXリスキル地域連携プログラム」を実施した。定員30人に72人の応募（倍率2.4）があり、カリキュラムの構成、講義内容・レベル・分量ともに受講後の評価も高かった。留学生に向けて理工学研究科では、英語で授業を行う特別プログラム「AI・データサイエンス高度人材育成プログラム（EPAD）」を実施し、令和5年度は博士前期課程で2名、博士後期課程で4名の留学生が入学した。							
④	他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>大学コンソーシアム佐賀では、データサイエンス教育の単位互換を推進しており、本学からはリテラシーレベルの科目を提供してきた。また、九州地区大学教育研究協議会などで、他大学等と数理・データサイエンス・AIに関わる教育方法や体制作りの情報を共有してきた。 今後は、本学が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム会員校でもあることを活かして、さらなる情報共有を図り、提供する科目を拡充するとともに、他機関の数理・データサイエンスAI認定や高等教育機関の高度情報系人材の育成等を支援する。他にも本学は、サイバー大学と単位互換協定を締結しており、相互に教材を利用できるよう展開を図る。さらに、令和4年度に実施した「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業Ⅱ（DXリスキル）」では産業構造のシフトが起きている北部九州において、地域産業の競争力を高める「DX人材」を養成すべく、佐賀大学と久留米高専、有明高専、佐世保高専、大分高専の5教育機関と北部九州地域の企業等約550団体を巻き込むDX人材育成プログラムを開発した。これらの教育機関との連携も強化する。</td><td>大学コンソーシアム佐賀では、データサイエンス教育の単位互換を推進しており、本学からはリテラシーレベルの2科目を提供した。また、国立情報学研究所「【第73回】大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム」（令和6年1月11日）および九州テレコム振興センターの会員向けWebマガジン「Key-Eye」（令和6年2月）などにおいて本学の取り組みを紹介した。さらに、佐賀大学と久留米高専、有明高専、佐世保高専、大分高専の5教育機関が連携し、社会人向けDX人材育成プログラム「北部九州DXリスキル地域連携プログラム」を実施した。定員30人に72人の応募（倍率2.4）があり、カリキュラムの構成、講義内容・レベル・分量ともに受講後の評価も高かった。</td><td></td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	大学コンソーシアム佐賀では、データサイエンス教育の単位互換を推進しており、本学からはリテラシーレベルの科目を提供してきた。また、九州地区大学教育研究協議会などで、他大学等と数理・データサイエンス・AIに関わる教育方法や体制作りの情報を共有してきた。 今後は、本学が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム会員校でもあることを活かして、さらなる情報共有を図り、提供する科目を拡充するとともに、他機関の数理・データサイエンスAI認定や高等教育機関の高度情報系人材の育成等を支援する。他にも本学は、サイバー大学と単位互換協定を締結しており、相互に教材を利用できるよう展開を図る。さらに、令和4年度に実施した「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業Ⅱ（DXリスキル）」では産業構造のシフトが起きている北部九州において、地域産業の競争力を高める「DX人材」を養成すべく、佐賀大学と久留米高専、有明高専、佐世保高専、大分高専の5教育機関と北部九州地域の企業等約550団体を巻き込むDX人材育成プログラムを開発した。これらの教育機関との連携も強化する。	大学コンソーシアム佐賀では、データサイエンス教育の単位互換を推進しており、本学からはリテラシーレベルの2科目を提供した。また、国立情報学研究所「【第73回】大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム」（令和6年1月11日）および九州テレコム振興センターの会員向けWebマガジン「Key-Eye」（令和6年2月）などにおいて本学の取り組みを紹介した。さらに、佐賀大学と久留米高専、有明高専、佐世保高専、大分高専の5教育機関が連携し、社会人向けDX人材育成プログラム「北部九州DXリスキル地域連携プログラム」を実施した。定員30人に72人の応募（倍率2.4）があり、カリキュラムの構成、講義内容・レベル・分量ともに受講後の評価も高かった。		
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
大学コンソーシアム佐賀では、データサイエンス教育の単位互換を推進しており、本学からはリテラシーレベルの科目を提供してきた。また、九州地区大学教育研究協議会などで、他大学等と数理・データサイエンス・AIに関わる教育方法や体制作りの情報を共有してきた。 今後は、本学が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム会員校でもあることを活かして、さらなる情報共有を図り、提供する科目を拡充するとともに、他機関の数理・データサイエンスAI認定や高等教育機関の高度情報系人材の育成等を支援する。他にも本学は、サイバー大学と単位互換協定を締結しており、相互に教材を利用できるよう展開を図る。さらに、令和4年度に実施した「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業Ⅱ（DXリスキル）」では産業構造のシフトが起きている北部九州において、地域産業の競争力を高める「DX人材」を養成すべく、佐賀大学と久留米高専、有明高専、佐世保高専、大分高専の5教育機関と北部九州地域の企業等約550団体を巻き込むDX人材育成プログラムを開発した。これらの教育機関との連携も強化する。	大学コンソーシアム佐賀では、データサイエンス教育の単位互換を推進しており、本学からはリテラシーレベルの2科目を提供した。また、国立情報学研究所「【第73回】大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム」（令和6年1月11日）および九州テレコム振興センターの会員向けWebマガジン「Key-Eye」（令和6年2月）などにおいて本学の取り組みを紹介した。さらに、佐賀大学と久留米高専、有明高専、佐世保高専、大分高専の5教育機関が連携し、社会人向けDX人材育成プログラム「北部九州DXリスキル地域連携プログラム」を実施した。定員30人に72人の応募（倍率2.4）があり、カリキュラムの構成、講義内容・レベル・分量ともに受講後の評価も高かった。							

大学名	佐賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3-3.学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,278	1,308																	
		入学者数	人	1,358	1,396																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,278	1,308																	
		入学者数(B)	人	1,358	1,396																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.06	1.07																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	5,364	5,391																	
		編入学定員	人	40	40																	
		在籍者数(D)	人	5,755	5,777																	
		編入学者数	人	58	66																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.07	1.07																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	3,945,209																		

特記事項

事業対象となる理工学部理工学科データサイエンスコース、知能情報システム工学コース、情報ネットワーク工学コースでは、総合入学制度を採用しているため、1年次の在籍者は存在しないことから、入学定員を1年次入学者及び在籍者とみなし、仮数として回答した。理工学部理工学科データサイエンスコース、知能情報システム工学コース、情報ネットワーク工学コースの入学者数の内数である女子学生数は理工学部総合入学制度の入学者数（R5:511人R6:519人）に対する女子学生数等（女子学生数R5:89人R6:88人）の割合から算出した。
理工学研究科（博士前期）データサイエンスコース、知能情報工学コースのR5年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。